

病害虫発生予報 第1号

(向こう1ヶ月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並	並～やや早	
	さび病・うどんこ病	全域	並	並～やや早	
水 稲	苗立枯病	全域	並	並	
	ばか苗病	全域	並	並	
	細菌性病害(もみ枯細菌病及び苗立枯細菌病)	全域	並	並	
りんご	黒星病	全域	並	やや早	
	うどんこ病	全域	並	やや早	
	赤星病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	ギンモンハモグリガ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	ナシヒメシクイ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
なし	黒斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	赤星病	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
もも	縮葉病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	やや多	並	
	ナシヒメシクイ	全域	並	並	
	コスカシバ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並	並	

	モモハモグリガ	全域	並	並	
ぶどう	晩腐病	全域	並	並	
	黒とう病	全域	並	並	
	ブドウトラカミキリ	全域	並	並	
施設果菜類	灰色かび病	全域	並	並	
施設キュウリ	うどんこ病	全域	並	やや早	
アブラナ科	コナガ	全域	並	早	
レタス類	ナモグリバエ	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウホウビガハムシ	全域	並	並	
たまねぎ	べと病	全域	並～やや多	やや早	
	白色疫病	全域	並	並	
きく	白さび病	全域	並	並	
野菜・花き類 全般	ハモグリバエ類	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	

II 向こう1ヶ月の気象予報(長野気象台 4月16日発表)

1 予想される向こう1ヶ月の天候(4月18日～5月17日)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

2 向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

3 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 麦

1 赤かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早

(2) 予報の根拠

① 麦類の生育は、茎立期では大麦（ファイバースノウ）は平年並、小麦（シラネコムギ）は平年に比べ8日早かった（農業試験場作物部調査）。

② 気象要因 気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 開花期に曇雨天が続くと多発する。

② 防除時期は最も感染しやすい開花期とする。開花期が早まる場合があるので防除適期を逃さないように注意する。

③ 開花期間に曇雨天が続くなど多発が予想される場合は、1回目防除（開花期）から10～14日後に追加防除を行う。

④ 今後の気象情報及び発生予察情報に注意する。

2 さび病・うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早

(2) 予報の根拠

① 麦類の生育は、茎立期では大麦（ファイバースノウ）は平年並、小麦（シラネコムギ）は平年に比べ8日早かった（農業試験場作物部調査）。

② 昨年発生が多かった地域では、伝染源量が多い傾向と推定される。

③ 気象要因 気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 過繁茂、生育の遅れているほ場では発生しやすい。

② 「農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」と略す。）に従って薬剤を選択し、発生初期及び出穂期を中心に防除を行う。

IV 水稻

1 苗立枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 育苗期間及び今後の天候は、数日の周期で変わると見込まれる。

② 気象要因 気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 極端な高温・低温、過乾・過湿は各種の苗立枯病の発生を助長するため、適正な温度管理、水管理に努める。

② ピシウム属菌による苗立枯病は、育苗初期の極端な低温により発生が助長される。また、土壌 pH が高いと発生が助長されるので、自家で培土を調整する際は留意する

③ リゾープス属菌による苗立枯病は、出芽、緑化期の高温・過湿により発生が助長されるので留意する。

2 ばか苗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 近年における発生の主要因はプロクロラズ耐性菌であることが明らかとなり、当該地域では使用薬剤を変更した。

(3) 防除上の留意点

① 購入した健全な種子を用い、種子消毒を必ず実施する。

② 浸種時の液温が15℃以上では発生を助長するため、液温管理には留意する。

③ 温湯消毒後の種子は汚染源（汚染された種子やわら等）との接触は避ける。

④ 万が一に苗で発生した場合は、抜き取りを徹底する。

⑤ 県内複数地域でプロクロラズ耐性菌が確認されているため、スポルタック乳剤、スポルタックスターナ SE の使用を中止する。また、ベノミル 耐性菌は依然として県内広域で確認されているので、該当成分を含有する薬剤の使用は控える。

3 細菌性病害（もみ枯細菌病及び苗立枯細菌病）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 育苗期間及び今後の天候は、数日の周期で変わると見込まれる。

② 気象要因 気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意

① 30℃を越える高温は著しく発生を助長するため、催芽・出芽温度を28℃とする。この場合、32℃催芽・出芽と比較して、出芽揃いまでおよそ1日遅くなる。

② 育苗初期までは温度管理に留意し、30℃以上の高温に長時間遭遇させない。

③ 温水循環式催芽器を用いる場合、被害を増大させる事例があるので、温度管理に留意する。

④ 県内ではオキシソリニック酸耐性もみ枯細菌病菌が確認されているので、耐性菌の既発生地域では、オキシソリニック酸を含有する薬剤の使用を当面控え、代替剤を使用する。

V りんご

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ① 全般に越冬伝染源量は、平年並と推定される。
 - ② りんごの生育は、やや早い。
 - ③ 果樹試験場内でのリンゴ黒星病菌子のう胞子飛散は、4月16日現在、前年と同様にわずかに認められている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、薬剤の選定にあたっては「県防除基準」を参照する。
 - ② 発芽10日後から5月下旬までの防除が重要であるので、防除間隔があかないように、また、降雨前散布となるように薬剤散布をおこなう。

2 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早
- (2) 予報の根拠
- ① 全般に越冬伝染源量は、平年並と推定される。
 - ② りんごの生育は、やや早い。
 - ③ 気象要因 1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い。
- (3) 防除上の留意点
- ① 被害病花そう（芽しぶ）はせん除して土中に埋める。
 - ② 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し防除する。

3 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は平年並と推定される。
 - ② りんごの生育はやや早い。
- (3) 防除上の留意点
- ① りんご園近くでは中間宿主であるビャクシン類を植えない。
 - ② 小生子が飛散する開花期から落花20日頃が防除適期である。

4 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 伝染源量は平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 園内の点検を怠らず、早期発見・治療に努める。
 - ② せん定痕には、農薬登録のある塗布剤を必ず処理する。

5 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬卵量は、南信は平年より多いが、他の地域は平年より少ない。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生がみられる場合は落花直後に殺ダニ剤を散布する必要があるが、休眠期にマシン油乳剤を散布していれば、通常この時期の防除は必要ない。

6 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬世代成虫の発生量は、全般に平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し防除する（蚕毒に注意）。
 - ② 昨年、発生が多かった地域は越冬密度が高いと推測されるので注意する。

7 ギンモンハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬成虫量は、全般に平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し防除する（蚕毒に注意）。

8 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生の多い場合は、「県防除基準」を参照し防除する（蚕毒に注意）。

9 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 心折れの被害が見られたら切除して焼却する。

10 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期の薬剤散布を心がける。

VI なし

1 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は平年並と推定される。発生時期は平年並。
 - ② なしの生育は平年並。
 - ③ 気象要因 1か月予報では、気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 薬剤散布は、なしの生育にあわせ遅れないように行う。
 - ② 散布間隔を開けすぎないようにする。
 - ③ 特に重要な防除時期は袋掛け前までである。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 前年、多発した園地では多いと考えられる。発生時期は平年並。
 - ② なしの生育は平年並。
 - ③ 気象要因 1か月予報では、気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 昨年発生が多かった園地では越冬伝染源量が多いと考えられる。
 - ② 薬剤散布はなしの生育に遅れないようにする。あわせて落花直後の防除との間隔が開きすぎないようにする。
 - ③ 春先は展葉、枝の伸長が少なく、薬液が付着しにくいので、場合により手散布を行い散布ムラがないようにする。さらに、伝染源となる受粉樹も防除する。

3 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は平年並と推定される。
 - ② なしの生育は平年並。
 - ③ 気象要因 1か月予報では、気温は平年並または低く、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 薬剤散布は、なしの生育にあわせ遅れないように行う。

4 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

- (2) 予報の根拠
- ① 巡回ほにおける短果枝越冬卵は中南信の一部で確認され、越冬卵量・越冬成虫量は平年並からやや多いと推定される。
 - ② なしの生育は平年並。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多く、防除が必要と考えられる場合は殺ダニ剤を散布する。

5 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
 - ② なしの生育は平年並。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生の多い場合は、「県防除基準」を参照し防除する（蚕毒に注意）。

VII もも（ネクタリンを除く）

1 縮葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は平年並と推定される。
 - ② ももの生育は、やや早い。

2 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 前年秋季の発生が多く、越冬伝染源量はやや多いと推定される。
 - ② ももの生育は、やや早い。
- (3) 防除上の留意点
- ① 第一次伝染源である春型枝病斑の切除を行なう。春型枝病斑は落花期頃から生じるので、園内を点検する。
 - ② 開花始めに農薬登録のあるボルドー液を散布する。
 - ③ 落花期以降、「県防除基準」に従い抗生物質剤を散布する。なお、これらの剤は薬剤耐性菌出現の恐れがあるので注意する。
 - ④ 防風対策を行う。

3 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 心折れの被害が見られたら切除して焼却する。

4 コスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
(3) 防除上の留意点
① 幼虫の寄生を認めたら虫孔から針金を差し込み刺殺する。
② 発生の多い圃地では、交信攪乱剤（スカシバコンL）を設置する。

5 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬成虫量は平年並と推定される。
(3) 防除上の留意点
① 発生の多い場合は、落花後以降「県防除基準」を参照し殺虫剤を散布する。剤によっては5月に散布すると葉に葉害が生じることがあるので注意する。

6 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬成虫量は、平年並と推定される。
(3) 防除上の留意点
① 越冬世代成虫は4月中下旬頃から発生するので、成虫の発生状況や幼虫の寄生状況に注意し、適期防除に努める。
② 成虫発生初期に、県防除基準を参照し遅れないように防除する（蚕毒に注意）。

VIII ぶどう

1 晩腐病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 昨年発生が多かった地域では越冬伝染源量はやや多いと推定される。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」を参照し、発芽直前から定期的に防除する。

2 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 昨年発生がみられた欧州系での越冬伝染源量はやや多いと推測される。
(3) 防除上の留意点
① 一般に欧州系品種は罹病性が高い。

- ② 「県防除基準」を参照し、発芽直前から定期的に防除する。

3 ブドウトラカミキリ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬幼虫量は平年並と推定される。
(3) 防除上の留意点
① 被害枝を見つけたら切除し、必ず焼却する。

IX 野菜

1 施設果菜類の灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査では、今までのところ発生はみられていない。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。
② 施設内の換気を十分行い、除湿を図る。除湿機の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制に有効である。
③ 発病葉、発病果は見つけ次第除去する。
④ 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。

2 施設きゅうりのうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査では、一部地域で発生がみられた。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

3 アブラナ科野菜のコナガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**早**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査では、今のところ寄生は確認されていないが、フェロモントラップ調査では、昨年より早い3月下旬に初誘殺された。
② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期後半(セル成型育苗)あるいは定植時に、「県防除基準」により薬剤を選択して殺虫剤(粒剤)を処理する。

4 レタス類のナモグリバエ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今のところ寄生は確認されていないが、野菜花き試験場佐久支場(小諸市)における黄色粘着板によるトラップ調査では、昨年と同様に、3月第6半旬に誘殺された。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗床での防除を徹底する。
- ② 育苗施設では黄色粘着シート(黄色)を設置し、成虫の捕殺を図る。
- ③ 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。

5 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今までのところ発生はみられなかった。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 前年の切り株に残存する病原菌が一次伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染するので、切り株はできるだけ除去し、敷きワラ等で泥はねを防ぐ。

6 アスパラガスのジュウシホシクピナガハムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今までのところ発生はみられていないが、近年、山際等の一部のほ場で発生がみられ、萌芽期から寄生がみられる。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 山沿いのほ場で発生しやすい。
- ② 発生を認めた場合は、萌芽初期以降に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

7 タマネギべと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**やや早**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、中信地域の調査ほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。
- ② 発病葉は二次伝染源となるので、早期に除去し、集めて埋める。

8 きくの白さび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今までのところ発生はみられていない。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発病葉は見つけしだい摘み取る。
- ② 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。

9 野菜・花き類のハモグリバエ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 苗床での防除を徹底する。
- ② 育苗施設では粘着シート(黄色)を設置し、成虫の捕殺を図る。
- ③ 育苗期後半(セル成型育苗)あるいは定植時に、「県防除基準」により薬剤を選択して殺虫剤(粒剤)を処理する。

10 野菜・花き類のアブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今までのところ発生はみられていない。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 発生を認めたら、多発する前に防除を実施する。
- ② 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。

11 野菜・花き類のハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、今までのところ発生はみられていない。

② 気象要因 向こう1ヶ月の気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。
- ② 薬剤による防除は、「県防除基準」を参照する。

12 フェロモントラップ誘殺状況

オオタバコガは、4月第2半句まで誘殺はなかった。

コナガは、塩尻市宗賀（県予察ほ）で3月第6半句に、朝日村古見（地区予察ほ）で3月第5半句に初誘殺が確認された。小諸市山浦（県予察ほ）では4月第1半句に初誘殺が確認された。

カブラヤガ3月第4半句に塩尻市宗賀で初誘殺が確認された。

タマナギンウワバは3月第6半句に塩尻市宗賀及び小諸市山浦において初誘殺が確認された。